

告 1 5 7 - 3
(告 1 5 7 - 2 の反訳)

野村：もしもし

今野：はあーい。はい。

野村：そんな、人に、不機嫌さを露わにしてね、ハラスメントするような言い方はやめませんか？

今野：ハラスメントはしてないんですけど・・・

野村：不機嫌さを思いっきり表現することで、相手に不快感を与えるような言い方はやめませんか？

今野：そうですか・・・

野村：そういうやり方・・・

今野：失礼しました。

今野：今、ちょっとね、ぱっと出てきません。ただね、あなた方がね、僕がね、8月3日の請求に対してね、8月の10日出した文書の中にはね、一部開示決定通知書と書いてませんでした？

今野：はい？

野村：一部開示決定通知書。その中にね、あの不開示理由というのが書いてあってね、それ以外は開示という体裁になってませんでした？

野村：いや、開示はしてると思うんですけど

今野：だから3番に関して、一切開示してないでしょ？

野村：3番の文書、3社のプロポーザル内容についてはね。3社のプロポーザル内容については一切開示してないでしょ。なーにも。

野村：それはその1から5まであって、その1から5までのうち一部開示しているっていう・・・

今野：文章は別ですよ、これ。文書としては別ですよ。わざわざ箇条書きにしてあ

告 1 5 7 - 3
(告 1 5 7 - 2 の反訳)

るのは。別の文書なんですよ。

今野：いや、それはそちらのあれですよ、町としてはそういうふうに・・・

野村：蘭越町ホームページリニューアル業務委託に関する以下の文書、で、箇条書き。これ文書として別のものなんですよ。誰が見ても。

今野：はい、いや誰が見てもっていうか、そういう解釈で、うちはそういうふうに・・・

野村：あなた方は、これを1個の文章としてみなしてるんですか？

今野：(不明)

野村：ちょっと待ってください。あなた、とんちんかんだ、言ってることが。

今野：僕も、野村さんが言ってることが、ちょっと理解できないんですけどね。

野村：あなた失礼なこと言ったからね、ここははっきりさせましょう。僕が書いている内容はね、「蘭越町ホームページリニューアル業務委託に関する以下の文書」そのまま読み上げます。1は、検討委員の所属氏名。2、三社のプロポーザル業者の選定理由。3、三社のプロポーザル内容。4、検討委員会がプロポーザルの評価選定をした理由。5、業務委託契約の内容、これが1個の文章に収まるんですか。

今野：いやいや、それで一括して、その中の3番については、そのプロポーザル内容ですか、それ企画立案、立案書の関係なんですけど、それに関しては開示できないっていうことだからで・・・

野村：この3番の文書についての請求に対しては、あなた方はね、完全に秘匿したんですよ。開示を一切してないんですよ。拒否なんですよ。そこは理解しますか？

今野：それはわかってます。

野村：でもね、そういうことを僕はされたことないんですよ。本当にこれは出せないんだろうな、と、これ出しちゃったらね、死人が出るぐらいの情報だから、出すわけないよな、と思いながら出したことがありますよ。でも出ますよ。黒

告157-3
(告157-2の反訳)

塗りにして、ちゃんと。駄目なの箇所ね。あなた方が出した非開示理由の中にはね、蘭越町何条の何項に基づくから、何条の3項に基づくからね、とだけしか具体的に書かなくてね、条文だけ掲載して書いてあるけどね、そこに該当する箇所以外はね、黒塗りにして出すものなんですよ。

今野：はい。

野村：ね、今まで僕はそういうふうにもらってきました。もらえなかったことは一度もない。

今野：はい。

野村：あなた方は、拒否したんですよ。一切ね。秘匿したんですよ。

今野：もう秘匿って、おっしゃるけど開示しないっていう、形なんですけどね。

野村：あのね、じゃこれ、これだけはね、もう1回別に分けますよ。あなた方がどういう対応するのか、興味があるから。プロポーザル内容について、いいや、もう出しちゃったんで、それで済ませます。どういうものが出るのかわかりませんがね。あなた方がね。それについてもね、完全秘匿するつもりなんですか？ ないと、出せないと。黒塗りにしてね、出していい箇所以外をね、出すんじゃないで、完全に、黒塗りもしないで、文章そのものをね、まるで不存在であるかのようにね、不存在であるかのように秘匿得しちゃうんですか？

今野：いやもう1回出すってことですか？

野村：もう既に出してます。「全ての文書」という言い方にして。

今野：ええ。それは昨日送っていただいた？

野村：そうです。

今野：ええ。印鑑を押して出していただいています？

野村：なんで印鑑が必要なんですか？

今野：（周囲に確認し）すいません。印鑑要らないことになったんですね。

野村：誰がそんなこと言ったんですか？ あなた知らないんですか？ 印鑑は要らなくなったことを。

今野：それは今聞いたんで。

野村：違う2年も前の話だよ。

今野：そうなんですか、全国的にね。あまりにもね、日本の行政事務が時代遅れだからね、止める、止めるって話は昔からいっぱいあってね、それでもね、それを聞かずにね、窓口でね、「これハンコおせ」「ハンコおせ」というね、バカな公務員がね、全国にいっぱいいたんですよ、何十年も前から。それはもう無意味だと、もう合理性がないと、何を言ってもそんな時代を送ることやってんのだと言われてようやく変わったのは2年前ですよ。全国的に変わりましたね、あなた今まで知らなかったんだ、それを。

野村：僕に対して「ハンコおせ」と言ってるんだよ。

今野：昨日そういう連絡いったっていう話を聞いてたんでね。

野村：あなたが言ったんじゃないんですか。あなたはハンコ押せとねしてきたじゃないですか？

今野：違いますよ。

野村：でも、あなたはね、それに対して調べたわけでしょ？ ハンコをおす必要がないってことをね。知らないで僕はね・・・

今野：私ですね、別件で急ぎの電話入ったんですよ。

野村：そんなの後回しにするべきじゃないですか。僕も電話、相手も電話。いま掛かっている話はね、優先すべきじゃないんですかね。そんなに重要な電話であることがわかるんですか？ あなたね、僕のね、電話を切ってね。ま、いいですよ。あなたがそういうのであればね。掛け直してもらえば、それでいいですよ。かけ直してもらえれば。そうしてください。

今野：はい。

野村：お願いします持ってます。